

ロシア商談会

10月10日から約1週間、ハバロフスク、ウラジオストクと県内企業による商談会、吉村知事のトップセールスに同行、視察調査に行っていました。

所変われば品変わるとあるように、ロシアにおいては自由経済体制になり時間が経過したものの、その商いについてはやった者の勝ちという雰囲気があり、それぞれの都市にある外務省関係の「日本センター」に上手にアレンジしていただかないとなかなか前進しないのではと感じられました。

だからこそ、商談会を積極的に開催して県産物の販路を見出ししていくことの重要性を認識した次第です。



日本センターでの説明会



ハバロフスク州議会議員との意見交換

平成23年度 山形県ハバロフスク・ウラジオストク商談会の成果

【ハバロフスク】

- 開催日 平成23年10月11日(火)、12日(水)
- 商談会場 ハバロフスク日本センター
(ロシア連邦ハバロフスク市)
- 商談の成果 (主なもの)

	品目	所在地	成果
1	釣り具 (ルアー)	米沢市	商談会期間中の商談成立したルアー(1万ルーブル分)を平成23年11月に輸出
2	米菓 (せんべい)	酒田市	平成23年11月、ハバロフスクの小売店にせんべいをサンプル輸出
3	中古タイヤ	酒田市	商談会に参加したハバロフスクのタイヤ販売会社に対し、平成24年1月、40フィートコンテナ1本の中古タイヤを酒田港から輸出

【ウラジオストク】

- 開催日 平成23年10月14日(金)
- 商談会場 ウラジオストク日本センター
(ロシア連邦ウラジオストク市)
- 商談の成果 (主なもの)

	品目	所在地	成果
1	啓翁桜	酒田市	平成24年1月上旬、商談会で商談したウラジオストクの花店が来県。啓翁桜100本を購入し持ち帰り、ウラジオストク中心部の商業施設にて、啓翁桜を使った生花展を開催。

米沢市立万世小学校視察

2月10日現在、県内には被災地より約13,000人の方々が避難されております。その中で児童生徒の受け入れ状況は下記ようになります。

米沢地区は福島県に隣接しているため、原発事故発生当時からかなりの方々が避難され民間のアパート等はすでに空きがない状況で今後学生、社会人の転勤に支障が出ないか心配されており、県を含む自治体の所有する賃貸住宅を斡旋して対応を図っています。

視察した小学校では児童は分け隔てなく授業していましたが、スクールカウンセラーがしっかりケアに当たっています。



高学年の授業風景

東日本大震災に係る被災地域の児童生徒の受け入れ状況 (2月10日現在)

【国公立】 (単位:人)

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	計
転入	31	904	181	70	7	1193
一時避難(聴講生)	1	0	0	0	0	1
計	32	904	181	70	7	1194

【私立】 (単位:人)

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	計
転入	477	0	0	9	0	486
一時避難(聴講生)	31	0	0	0	0	31
計	508	0	0	9	0	517

【国公立+私立】 (単位:人)

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	計
転入	508	904	181	79	7	1679
一時避難(聴講生)	32	0	0	0	0	32
計	540	904	181	79	7	1711

〈参考〉 前回調査(1月10日現在)との比較

【国公立+私立】 (単位:人)

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	計
転入	+6	+1	+2	0	0	+9
一時避難(聴講生)	0	0	0	0	0	0
計	+6	+1	+2	0	0	+9



教職員との意見交換



12月定例会 予算特別委員会

昨年は3月11に発生した東日本大震災が日本中を呑み込んでしまったような気がしてなりません。改めて、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

そして今年は復旧復興の大切な年になります。私はそのような事を念頭において、12月定例議会予算委員会にて質問に立ちました。特に吉村知事には宮城県の復興計画に山形県はもっと積極的に係わるべきだったのでと切り出しました。それは村井宮城県知事が常々「東北広域連携」を語っており、まさに災害時において山形県が果たした役割は大きく、連携の重要性を認識しているからです。「がんばろう!東北」は

6県が対等に元気にならなければ、掛け声に終わってしまいます。今後は、被災の大きかった県議会も新しくなりましたので、是非意見交換等図りたいものと存じます。

主な質問事項

- 1) 最上管内における雇用創出を図るための新パッケージ事業の採択について
- 2) 自動車関連企業と地場企業等のマッチングを図るコーディネーターの配置について
- 3) 農林水産業産出額3,000億円達成に向けた課題と地域の伸びしろについて
- 4) 被災地宮城県との連携をいかに図るか等々です。